琉球大学学術リポジトリ

日本人における2つのHIV関連神経認知障害スクリーニング検査の有用性について：cART非開始群と開始群の比較

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学
	公開日: 2018-12-11
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: Onaga, Kaoru, 翁長, 薫, 翁長, 薫
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43025

（別紙様式第３号）

論　文　要　旨

論　文　題　目

Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage

日本人における２つのHIV関連神経認知障害スクリーニング検査の有用性について

～cART非開始群と開始群の比較～

氏名　翁長　葉

【背景と目的】HIV関連神経認知障害

(HIV-associated neurocognitive disorder: HAND) はHIV感染に関連する認知障害で、有病率は20～74％と高いことが報告されている。HANDは仕事や自動車運転などの日常活動における質の低下のみならず服薬のアドヒアランスを低下させ、生命予後に影響を及ぼすことから、その早期診断は極めて重要である。その正確な診断は神経心理学専門の心理士が専用の器具を用いて複数の神経心理検査を組み合わせて行う必要があるため、その実施は特定の医療機関に限られている。したがって、医療資源の乏しい施設でも実施できるHANDのスクリーニング検査としてMini Mental State Examination (MMSE) とInternational HIV Dementia Scale (IHDS) が世界的に汎用されている。近年、combined Anti-Retroviral Therapy (cART) によってHANDの軽症化や認知機能障害パターンの変化により、スクリーニング検査の感度は低下するとの報告がなされているため、MMSEおよびIHDSはcARTを開始していない患者に限定すれば有用と考え

20 × 20

られる。しかし、実際に治療の影響を考慮して MMSE と IHDS の HAND に対する有用性を同時に比較している先行研究は1報のみであり、しかも同報告は症例選択のバイアスが極めて高いことを著者らも認めている。そこで本研究では cART 非開始群と開始群で MMSE と IHDS の HAND 診断能の比較を行った。

【方法】2009 年 1 月から 2014 年 3 月の間に琉球大学医学部附属病院を受診し、同意が得られた HIV 患者で、神経心理検査バッテリー(Trail Making Test-A、Trail Making Test-B、Digit Span、Digit Symbol Test、Stroop Test)及びスクリーニング検査(MMSE、IHDS)が行われた者を対象とした。神経心理検査バッテリーの結果を HAND 診断のゴールドスタンダードとして 2 つのスクリーニング検査の ROC 曲線を作成し、cART 非開始群と開始群における AUC を比較した。

【結果】対象は 49 人(cART 非開始群 n=27、開始群 n=22)であった。両群間で年齢、性別、教育年数、HAND の診断、末梢血 CD4 数の最低値に

有意な差はなかった。cART非開始群のCD4数は、cART開始群より有意に低かった(p<0.001)。cART非開始群のHIV-RNA量はcART開始群より有意に高かった(p<0.001)。全対象のMMSEの感度と特異度はそれぞれ18%及び96%であった。cART非開始群では20%及び92%であり、開始群では14%及び100%であった。Youden's J-Indexは0.1で変化しなかった。一方、IHDSについて全対象の感度及び特異度はそれぞれ55%及び70%であった(J-Index = 0.3)。cART非開始群では60%及び75%であり(J-Index = 0.4)、cART開始群では43%及び67%であった(J-Index = 0.1)。

【考察】MMSEは全ての群において低い診断能であった。IHDSはcART非開始群とcART開始群で診断能に違いがあり、cARTの使用がIHDSの有用性を変える可能性が示唆された。

【結語】MMSEは日本人のHANDスクリーニング検査として有用ではなかったが、IHDSはcARTを開始していない患者に対して有用である可能性が示唆された。

20 × 20